めぐり逢う朝（1991）

TOUS LES MATINS DU MONDE

メディア 映画
ジャンル ドラマ　音楽
製作国 フランス
色彩 Color
時間 115分
初公開日 1993/02/11
公開情報 ヘラルド・エース＝ヘラルド

【解説】

すっかり文芸映画専門家になった感のあるＡ・コルノーが、現在フランスで最も典型的な教養溢れる作品を書くといわれるＰ・キニャールと共同で原作・脚本を執筆した、重厚かつ清新な作品。相反する芸術観を持った実在した音楽家の師弟の愛憎をきめ細やかに描く。その魅力の多くは主題となる古楽器ヴィオールの優しい響きが担っている。その名匠と謳われたサント・コローム（Ｊ＝Ｐ・マリエール）は地方に隠遁、娘マドレーヌを側に置き、ただ一人演奏に没頭する生活を続けていた。そこへ潜り込み弟子となったマラン・マレ（子ドパルデュー）は師と違い栄華を求め、破門されるが、なお娘を通じて師の技術を盗もうとする。宮廷音楽界の第一人者となっても師を越えられないと自覚する老マレ（父ドパルデュー）の回想で、いかにも中世的な暗がりや薄暮の美しさを鮮やかに捉えたＹ・アンジェロのキャメラが素晴らしい（コルノーは谷崎潤一郎に傾倒しており、スタッフ全員に彼の『陰翳礼讃』を読ませたと言う）。成程、どこかその芸道の耽美的追究は『春琴抄』の作品世界にも似るが、彼らの人生に寄り添う女性たちの描き方は（ことに亡き妻の面影がコロームを訪れる場面は）谷崎的、というより、やはりコルノーが影響を受けた溝口健二の作品を思わせる。ジェラールとギョームの親子が同じ役の青年期と老年を演じるのも話題になった。全体に優等生的な出来なのが気にかかる。

【クレジット】

監督	アラン・コルノー	Alain Corneau
製作	ジャン＝ルイ・リヴィ	Jean-Louis Livi
原作	パスカル・キニャール	Pascal Quignard
脚本	パスカル・キニャール	Pascal Quignard
	アラン・コルノー	Alain Corneau
撮影	イヴ・アンジェロ	Yves Angelo
音楽	ジョーディ・サヴォール	Jordi Savall
出演	ジャン＝ピエール・マリエール	Jean-Pierre Marielle
	ジェラール・ドパルデュー	Gerard Depardieu
	アンヌ・ブロシェ	Anne Brochet
	ギョーム・ドパルデュー	Guillaume Depardieu

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.